

再板

農業全書

農事總論

11  
25  
86

Y994-J8265



\*1200801182765\*

特許圖書  
382  
1



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

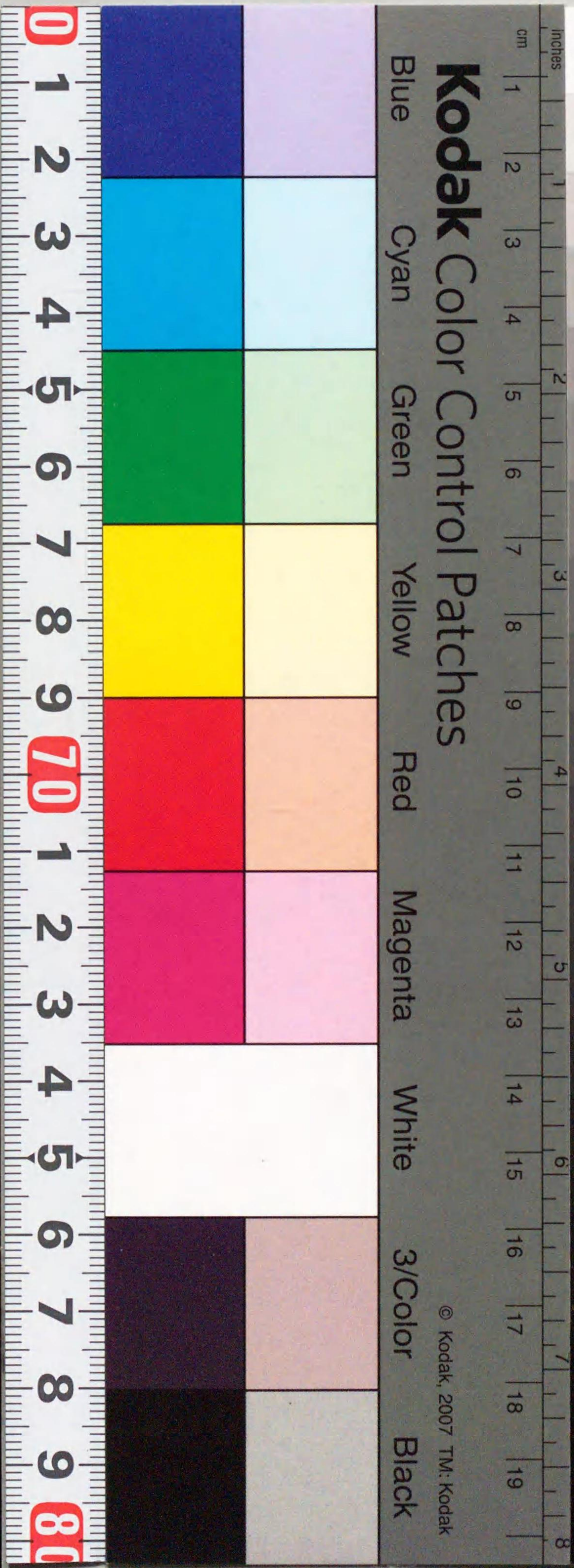


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak





Y994

J8265



I 種

W



\*1200801182765\*



大正12年9月1日  
第382號

農業全書敘

聖人之政在教養二者而已矣。而論其  
序則養為先，教為後。是令富而後教之  
也。何則？食惟民之天，農為政之本。民之  
為道也，無怙產者，無怙心。故衣食足而  
後禮義可興，教化可行。是故古昔明君  
以制民產為先，務制民產之道在教稼  
穡而已。舜以棄為后稷，教民稼穡樹藝

農業全書敘

特許局圖書

國	函
號	3
部	3
冊	50號



五穀。五穀熟而民人育。然後以契爲司  
徒。敬敷五教。五教行而人倫之道明。是  
聖人爲政之序也。欽亮タカク天功之道。於是  
乎備矣。夫入倫之教。載在六經。語益炳  
如日星。況後世賢哲代起。而更有發明  
之乎。如稼穡之法。中華之載籍固多。而  
傳在レ本邦。足以爲農家之教。然凡民  
不能讀之。而解其說。是以農家每昧于

種植之術。終身由之。而不知其道。識者  
以爲恨。烏余嘗欲以國字輯錄之。然庸  
劣之資。治經而力常不足。況及其他乎。  
是以既廢稿矣。本州之士宮崎安貞。村  
居四十年。常以試種植爲樂。其用心也  
尚矣。其執術也熟矣。且遊觀于畿內暨  
諸州。旁爰詢謀于老農。考於中華之農  
書。驗於レ本邦之土。宜將著書以諭農



起稿十卷。命名爲農業全書。但恐有疎  
謬孟浪之患。而不能成書。因茲請予之  
家兄樂軒翁之。是正而不輟。樂軒亦年  
既高邁。雖不任其勞。然平生利人濟物  
之志。至老益厚。不取于古人。故不克固  
辭。修飾數回。於是易稿而成。編竊謂此  
書之於本邦也。古來絕無。而初有者  
也。若後有繼作者。當以此爲本邦農  
書之權輿。然則於訓農之方。豈謂無補  
乎。今將鍍梓。以廣其傳。請序於予。安貞  
今茲七十有五歲。余感其爲志。老而益  
壯。於是述此書之所以作而爲之。叙  
元祿丙子中和節

筑前州後學員原篤信書









乃世代より伝授と云く農業と云へし其の契と曰は  
 して世より人傳のたゞなるに非ざるなりと云へし  
 のまひゆるに人傳れ道のなりと云く農業  
 此政より天下を帝より濫たるをりより業は  
 乃を王官者天下國家と治るに必者とするめ稼  
 穡と云ふと云く是と云く人傳のたゞなるに非ざる  
 下位よりありと云く是と書と傳と云く人多しカ田の術中  
 華の書漸く多く傳すども我はは農民は又  
 小又盲なればもそのと傳授と云くことあるに也又  
 又字と云くとするは其のたゞ農業よりなるに也  
 傳と云くは古を初る賢者多くは農業  
 と云くは其のたゞなるに非ざるなりと云へし  
 傳と云くは故に農法を小安しと云くは然るに今泰平  
 の世代より治上に感なりといふも其の術は下  
 よ富ありざるに非ざる也又盲なるは民の使は



あつと老書乃をせと一終つねる故なり也  
人より多くして社会も繁くあり  
ともかば人民いよまはつて老幼も  
女と男のあひし傳ふよゆるきと  
くこれを食するもの多しと  
たりやとらひけし母よはつて  
うとくもと費すものに十倍なり  
是れが世のゆかり然れど今世の  
つとくか田に功と利ありあつて  
り飢寒なりとまはるるや我久しく  
ありと老人の目に勤むとけり  
妻の勤むとけりたゞるれど  
小身と力と者も勤むとけり  
勤むとけりよと多くてや  
人の不足と多くてや  
しくと多くてや



唯ひくは民皆農術と云ふ事一は稼穡乃道  
 めらるる事なり。是誠一様にして情じき事  
 の事一もなり。凡天下此の必致知と力なりと  
 通ずる事あり。故に先よく農術を  
 つくは農功を勤むべし。恒の産ぶるは恒  
 の心なり。衣食よりくは礼義のつくるは  
 民行極乃たことなり。穀也。衣食の  
 事。いさく若くは事。のつくるは事。  
 礼義。廣配乃た。凡俗と云ふは人々和順一。世  
 安んずる事。日々に新し。月々おさるる事。  
 昨日を此地。南水乃中央。尚もるは。塩場の  
 氣正しく。室も中和に。るは。まじき。天災  
 地福も。なく。平原多し。稲麦と。行方。此地  
 ひろく。國土。又。清く。肥良。なれど。方。極。乃  
 於。地。と。成。長。せ。ら。る。事。なり。と。り。これ。外。の。事  
 と。必。は。な。し。と。し。て。事。なり。政。治。の。日。の。力。







一、行抄るるごとくむひきまはれ去はせむせらる地にて  
 ては用しりあふ多し我は乃材はあしく他はの  
 也と買あむ農ちるべし我村に任むるす  
 ては四十年。むむむむむむむむむむむむむむむむ  
 へか者事とむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 常に老氏の稼播れ方うむむむむむむむむむむむ  
 多し老氏とむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 乃古匠ふとむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 或或内法むむむむむむむむむむむむむむむむ  
 多し行は集めく十老とむむむむむむむむむむむ  
 つる。されどなむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 語り。鄙俚れ言多むむむむむむむむむむむむむむむむ  
 めく。疎謬多うむむむむむむむむむむむむむむむむ  
 人見取樂軒ぬいし書とむむむむむむむむむむむむ  
 一と彼ぬたらむむむむむむむむむむむむむむむむ



一に書と経同なること其業也  
 都事と。老境の樂とぬけてをなしたる。あつていひごと。予。曰。昔。子。ら。か。ま。せ。り。り。あ。り。の。事。た。ら。ひ。あ。く。し。ぬ。た。し。昔。も。う。か。ら。ん。予。が。功。と。助。な。し。て。も。一。ま。た。い。つ。あ。つ。い。し。書。を。い。わ。ま。ひ。く。け。ん。た。ら。か。り。蓋。と。ら。つ。る。も。も。し。く。の。参。贊。れ。功。の。あ。ぐ。の。福。と。な。し。て。い。ひ。し。も。い。は。る。く。し。と。い。れ。り。か。れ。り。か。ら。し。て。昔。も。う。志。も。な。ら。ん。ら。び。や。と。い。ふ。の。祥。と。る。こと。あ。つ。す。く。て。ら。が。飛。ぶ。道。と。め。ら。つ。あ。れ。と。域。使。み。ぐ。け。ど。も。む。と。あ。り。か。つ。た。は。り。な。れ。ば。あ。り。ぬ。し。と。し。て。た。み。親。し。る。る。く。笑。は。り。な。し。す。く。ん。か。ら。ん。れ。世。笑。と。招。ん。る。ひ。あ。つ。い。し。ぬ。た。ら。か。ら。ん。後。来。老。事。に。ま。は。ら。ん。智。と。す。と。行。ろ。る。と。い。は。く。今。の。を。い。は。る。を。業。と。す。る。人。の。こ。の。あ。つ。ま。補。ひ。あ。ん。し。と。な。ら。ん。ひ。あ。つ。い。し。ぬ。た。ら。か。ら。ん。及。ぶ。と。い。は。る。と。い。は。る。く。く。白。己。の。鄙。陋。と。い。は。る。



といふことあり。魏州乃隱居。文考安貞序  
と。元祿九年仲冬。此後月なり。

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

農業全書後序

有虞氏之立官也。以命稷。教稼為初。洪範八  
政以食為先。武王之所重。在民食。子貢問政。  
夫子告之。亦以足食為首。蓋生民之道。不可  
一日而無者也。聖人豈輕之哉。平秩東作。虞  
書立制。敍載南畝。周雅垂文。此皆為奉天時  
以授人。盡地力而豐食。前脩云。民之大事。在  
農。不其然乎。不其然乎。古之王者。貴為天子。



富有四海。而必私置籍由。蓋其義有三焉。一以奉宗廟。親致其孝。二以訓乎百姓。有勤。勤則不匱也。三聞之于孫。躬知稼穡之艱難。無違也。周公陳無逸。以告成王。要先知稼穡之艱難者。以此也。本邦之遠古。天照大神始教耕植之道。以供生民之食。自是以來。聖神相承。無以此不為急。崇神天皇詔云。農天下之大本也。昔哉。況亦朝廷之立制也。以祈年為年中祭祀之首者。有以也。中華言農耕之道者。有其家學而列之於九流。且種藝之書亦居多矣。如本邦振古此術空傳于農夫之口頭。而未有筆之於汗簡者。且其所傳之法亦類乎膠柱契舟者。不鮮。故暗其術失其法。無財成輔相之益。而有助長不耘之害者。往往皆然。良可歎也。予父執宮崎翁自幼好學。以其在草莽身履乎耕



稼之場而心熟種藝之業。且嘗閱於華夏之  
農書而窮耕芸之術。深造其奧。默識其妙。今  
也。齡超懸車。日垂未暮。於是乎鏗鎗於其平  
日明試之法。與古書所載之說。纂脩以為一  
書。欲備農家之龜鏡。蒐輯有年。而草創之功  
既就。簽之曰農業全書。終託之於予。家嚴日休  
翁求刪正。家嚴素勉窓下螢雪之業。而未  
知南畝蔗藜之事。以故辭之。不敢肯尚。猶乞  
之。不措。遂無地。峻拒。乃於暇日。再三檢閱。修  
飾其文義。發明其餘意。以塞其責。亦請予序  
諸後。然而吾損軒翁已序之詳矣。今復奚言  
哉。惟有感乎官崎翁成此編。以為農家之懿  
範。則有功乎人世。博且鉅。而與俗間之著書  
多談無用之辨。語不急之察。而罔裨世用者  
之比。相遠萬萬。遂告父叔。詢乎削剗。氏登之  
於棗。以欲廣布于世。曾聞太玄初作桓譚謂



其必傳。三都賦成。洛陽為之。紙貴。如今此編者。亦繡梓功訖。田畯野翁。爭相求之。以熟農桑之術。則舉世之民。必免凍餒之憂。施及在上之人。則不出戶。以知稼穡之艱難。而不敢荒寧。不亦善乎。然則至必傳。紙貴亦未可知。何必待予之言。而後顯乎。姑書歲月於此。以為他後之證云。

元祿丙子桂月日

後學筑前州貝原好古書

凡例

一予此書と述るなり。是の年。生にたり。人いを。みせむ。くいせ。い。益。か。く。福。く。く。て。一。生。る。本。と。共。に。折。落。せ。ん。の。悔。も。蟻。蟻。小。こ。こ。あ。ら。さ。る。の。と。恥。ぢ。ら。る。あ。れ。ど。も。才。力。く。徳。も。く。又。位。か。け。き。え。ん。す。此。功。と。い。ふ。く。え。ん。は。は。く。人。を。利。と。す。此。術。か。し。唯。我。と。民。を。友。と。し。て。考。ふ。よ。お。ろ。ふ。年。の。り。又。その。若。民。乃。を。術。委。し。か。ら。さ。る。ゆ。か。と。あ。ら。さ。る。業。



一予立年しやうねんにはゆめをとくははし一民同一徳有一老  
のと業しせり今我齡とてふ八旬一進一教十  
 年の芳とはんど老徳はおのとくとある一とある  
 め多一又郷はれ教郷村落とめらり或都はま  
 進んど一とく老業の徳とあるの徳はり又予が  
 稼獲よおのとく三折は功あるとあまづ予當一  
 記之  
 一予が故人樂軒翁の事をとめんどま志業し身  
 志をつる年にはははは一困窮といえ一道



義は滞るる久し。又強半れはより。せと約一民  
 と恵むに志あり。時民間の事とあり。且徳を  
 こころも興せり。いゆはね予が事創る功は  
 たどりて。い書と法制。今傳せんこと。い  
 強く。後拒はたつ。ういも。辞さるるあ  
 ころ。い。に修。て書かむ。  
 一吾なり。う。又。なく。く。又。と。飾るるあ。  
 ころ。い。い。の。く。一。考。あ。用。る。あ。わ。あ。  
 ころ。い。又。と。善。廉。す。き。ふ。あ。ず。未。軒。あ。  
 ころ。い。と。辞。と。一。て。衣。民。の。さ。く。一。や。と。う。く。ん。の。  
 ころ。い。と。思。ひ。各。俗。に。う。つ。せ。り。  
 一い書とふく。ころ。い。思ひ多。年。老。書。は。端。を。う。か。  
 ころ。い。ひ。深。く。ん。を。用。る。と。い。う。こと。な。よ。う。り。さ。る。け。れ。ん。悲。  
 ころ。い。く。そ。は。と。お。い。の。か。く。又。い。あ。ひ。ち。ん。く。法。を。  
 ころ。い。経。歴。と。い。れ。ば。天。下。と。善。く。せ。ら。れ。ど。さ。れ。ど。年。は。  
 ころ。い。ま。ぬ。く。ん。と。芳。と。し。ら。れ。ど。も。私。淨。は。老。は。よ。あ。の。て。



そふ者とありては、夫は地味なるも、  
く、氣運のよきものか、と云ふに  
記す所、或はよより、と云ふは、  
く。又、氣運のよきものか、と云ふに  
暗たつるものも、中につく、  
ねど、そのものは、必ず、功と  
性よ、おのゝ、物と、さ、さ、さ、  
ある者、人、縁、福、よ、心、と、用、る、の、  
忍、よ、ま、さ、わ、る、も、あ、る、ん、  
ろ、く、い、の、と、あ、り、ま、く、  
歴、一、徳、の、老、若、よ、く、  
乃、若、と、さ、く、い、ら、る、  
れ、若、人、の、さ、く、い、ら、る、  
わ、る、る、あ、り、ま、く、  
よ、ろ、の、あ、り、ま、く、  
十、は、く、と、さ、八、は、く、と、さ、







しく安系なりんぬ。是は必書と云ふにこくた  
らん。是は別るに海ホウと云ふに海。今より海書  
女人智と云ふは深くしむむなり

一 け書は越。大和と序よりわうり。なはなを勉こと  
系。系をなと改小記せり。又新改のこ味ハ書  
世福は述より。あつねとい書はたまをア人とな  
ら。老乃系とと契強とて一

一 此書より名をたよかかといはるに老人として  
んは志らんがなり。そんを知りやと云ふことなり  
おたふ兵と云ふかか。おとく字んがたがよるものあり  
一 若家け書とよこ。こま大概と云ふといふとも。目

かにいといふじ老のよつづく。んとあ。一カと用  
と。美にま理と事れとよ。勉め。勤と修。修。今  
おせといは。味も。士。並の。花。り。なる。ぐ。た。と。人。傷。と  
とま。あ。ん。と。く。四。書。小。学。よ。契。一。ま。ま。館。の。煙。書。小

も。想。通。一。字。系。訓。法。と。傍。一。且。海。法。一。と。一。得



なりといへども徳義を以て信し深く心を用ひる

養育察を以て治入の功とせばと。まゝ真知と教ふるは

勤さねば彼道義我れ樂と云ふるは。中て又

盲人の如く。一い書も又も。田下だひくこ

れと実ひよ。別紀補と云ふ人あり。も後よは。の

と云ふ。よろしく。れ口遊一。度乃信候とて。考業の

とよおわく。く。い。美。実。ふ。んと。勤。と。思。ひ。と。考。業。の。か

と用ひく。これをも。ん。と。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か

かくして。大。は。強。と。ゆ。る。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か

おぼ。く。い。お。わ。く。く。ん。を。と。め。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か

われども。皆。平。生。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か

よの。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か

ふ。の。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か

と。の。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か

て。た。の。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か

一。後。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か。と。思。ひ。と。考。業。の。か



一らば程は書と増補し。孫氏れ其くしんる。予が後  
 續よちてく。せを患ひ考とめぐむれ其をこしう  
 之む希ふ所なり。抑は去に邦考書の新撰  
 あり。是倫一のる。系考子。考とにわくせと  
 うれ考と情む然よりおくり。然れどはげのま  
 かあしとい志と考し。二のる。考と考く考世よ  
 傳てく。考物を空しくせざらん。考又仁考百  
 行れ一なりんか。

九例畢

農業全書總目錄

第一卷	農事總論	九十ヶ條
第二卷	五穀之類	九十九種
第三卷	菜之類	九十六種
第四卷	菜之類	九廿三種
第五卷	山野菜之類	九十八種
第六卷	三草之類	九十一種
第七卷	四木之類	九四種

農業全書總目錄



農事類聚

第八卷 菓木之類 九十七種

第九卷 諸木之類 九十五種

第十卷 生類養法 九三種 藥種類 九廿二種

第四卷 菜之類 八十三種

第三卷 菜之類 八十六種

第二卷 菜之類 九十二種

第一卷 菜之類 九十二種

總目畢



# 農事類聚圖

農事類聚





Figure 10





農業圖





農業圖













農業全書卷一目錄

農事總論 十ヶ條

耕作 一

種子 五

糞 五

時節と考 五

鋤芸 五

糞 五

水利 五

獲收 五

蓄積 廿九

山林之説 五







田といきいて云れぬ田はかくもづつ農者にとぬ田  
 と解ゆゆるあり。是と藉田と云く政の初  
 たり。是古に資表の主の農業者と云んばなとに  
 たり。ゆへに倣せたり。是は天下に農人云れ耕と  
 と云へ天万地とせむる中の人なり。ましまさし人比  
 せきぬ。則天れんとうけ。終て天下乃万地とめく  
 云へる。よんどののいへる。まかぬる。まかぬら。されば  
 人世におぬく。その功業乃まきと。はまじまきの生業  
 乃たり。生業乃た。耕他と云く。始と根をす。て  
 是則業餘は。政の也。可此。財穀と。皆耕他より。ちる地

かり。故に農業者乃た。まかぬる。不。是。か。も。し。然。る。を。成  
 どもに。い。理。り。と。深。く。か。み。と。考。へ。ん。と。農。業。は。田。り。そ  
 る。故。ら。り。か。ら。う。す。又。一。人。耕。し。て。十。人。を。食。す。る  
 分。救。あ。る。ゆ。か。ね。と。農。業。と。は。ひ。り。人。の。心。力。を。盡。し  
 て。ま。け。ひ。へ。し。耕。他。は。ま。く。れ。ぬ。ゆ。あり。先。に。農。人。の  
 もの。に。我。身。上。に。分。取。と。り。け。ら。り。て。田。島。と。ゆ。へ。し。  
 若。し。か。際。ら。り。内。ち。ち。と。い。く。よ。り。と。し。を。い。く。よ。り。方  
 を。い。く。甚。あ。し。と。す。又。田。島。の。年。に。か。地。と。や。す。あ  
 て。作。り。と。り。と。す。ま。か。ぬ。と。地。乃。耕。射。ま。く。と。ゆ。へ。し。  
 此。れ。は。と。り。と。り。と。い。て。ゆ。へ。し。一。人。より。多。く。田。一



二、<sup>ね</sup>と<sup>く</sup>畠とま<sup>し</sup>。他<sup>に</sup>は<sup>な</sup>れ<sup>ば</sup>氣<sup>持</sup>としてさ<sup>う</sup>ん<sup>り</sup>なり。  
 とも<sup>ま</sup>せ<sup>し</sup>と<sup>虫</sup>氣<sup>と</sup>な<sup>り</sup>。其<sup>の</sup>一<sup>倍</sup>も<sup>あ</sup>る<sup>地</sup>なり。<sup>九</sup>い  
 田<sup>と</sup>畠<sup>に</sup>な<sup>り</sup>たる<sup>地</sup>は<sup>地</sup>も<sup>よ</sup>く<sup>生</sup>え<sup>し</sup>る<sup>も</sup>た<sup>り</sup>。さ<sup>ね</sup>は  
 う<sup>く</sup>去<sup>る</sup>あ<sup>の</sup>く<sup>候</sup>ち<sup>き</sup>畠<sup>と</sup>う<sup>つ</sup>と<sup>厚</sup>利<sup>と</sup>地<sup>へ</sup>  
 一<sup>と</sup>そ<sup>畠</sup>地<sup>を</sup>去<sup>る</sup>氣<sup>は</sup>り<sup>し</sup>る<sup>時</sup>又<sup>な</sup>ら<sup>ぬ</sup>田<sup>と</sup>ま  
 し<sup>猶</sup>と<sup>つ</sup>くれ<sup>ば</sup>。是<sup>又</sup>一<sup>二</sup>ひ<sup>も</sup>去<sup>る</sup>地<sup>持</sup>と<sup>て</sup>大<sup>利</sup>と<sup>う</sup>る  
 と<sup>れ</sup>ぢ<sup>り</sup>も<sup>ん</sup>も<sup>も</sup>は<sup>と</sup>老<sup>ま</sup>れ<sup>る</sup>も<sup>も</sup>ち<sup>り</sup>なり。<sup>九</sup>去  
 へ<sup>持</sup>し<sup>か</sup>ゆ<sup>れ</sup>ば<sup>陽</sup>氣<sup>多</sup>く<sup>又</sup>執<sup>滞</sup>と<sup>れ</sup>ば<sup>陰</sup>氣<sup>お</sup>ゆ<sup>し</sup>。  
 夫<sup>陰</sup>陽<sup>れ</sup>ば<sup>り</sup>の<sup>ま</sup>て<sup>涼</sup>し<sup>い</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>と</sup>耕<sup>作</sup>は<sup>用</sup>ゆ<sup>ら</sup>ず  
 へ<sup>そ</sup>ん<sup>と</sup>付<sup>ね</sup>ん<sup>と</sup>さ<sup>ら</sup>り<sup>や</sup>す<sup>し</sup>老<sup>人</sup>と<sup>れ</sup>と<sup>ま</sup>ん<sup>と</sup>

へ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>し</sup>ど<sup>も</sup>を<sup>お</sup>ろ<sup>し</sup>と<sup>わ</sup>さ<sup>ま</sup>ん<sup>と</sup>して<sup>耕</sup>作<sup>と</sup>は<sup>と</sup>  
 ひ<sup>つ</sup>の<sup>多</sup>く<sup>れ</sup>若<sup>者</sup>と<sup>ま</sup>ん<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>と<sup>利</sup>潤<sup>と</sup>地<sup>も</sup>あ  
 かし<sup>老</sup>人<sup>と</sup>なり<sup>し</sup>る<sup>は</sup>陰<sup>なり</sup>。乾<sup>き</sup>く<sup>る</sup>は<sup>陽</sup>なり。  
 ね<sup>り</sup>の<sup>や</sup>ま<sup>り</sup>る<sup>は</sup>陰<sup>なり</sup>。捲<sup>く</sup>。さ<sup>や</sup>う<sup>ま</sup>る<sup>は</sup>陽<sup>なり</sup>。  
 ち<sup>り</sup>く<sup>し</sup>て<sup>柔</sup>り<sup>し</sup>る<sup>は</sup>陰<sup>なり</sup>。堅<sup>く</sup>は<sup>陽</sup>なり。柔<sup>く</sup>強<sup>く</sup>  
 け<sup>く</sup>く<sup>強</sup>は<sup>陽</sup>なり。い<sup>は</sup>れ<sup>ば</sup>強<sup>と</sup>なり<sup>し</sup>る<sup>は</sup>去<sup>る</sup>地<sup>の</sup>  
 ん<sup>と</sup>ま<sup>り</sup>る<sup>は</sup>陰<sup>なり</sup>。強<sup>も</sup>乃<sup>陽</sup>なり。勝<sup>ぶ</sup>る<sup>は</sup>陽<sup>なり</sup>。  
 にか<sup>あ</sup>り<sup>陰</sup>陽<sup>の</sup>よ<sup>く</sup>測<sup>計</sup>と<sup>考</sup>へ<sup>し</sup>て<sup>入</sup>し<sup>時</sup>と<sup>り</sup>  
 日に<sup>耕</sup>し<sup>て</sup>ま<sup>た</sup>白<sup>く</sup>干<sup>た</sup>る<sup>時</sup>か<sup>き</sup>く<sup>ま</sup>る<sup>と</sup>地<sup>の</sup>  
 う<sup>ゆ</sup>ら<sup>と</sup>。又<sup>畠</sup>地<sup>は</sup>日<sup>と</sup>風<sup>を</sup>あ<sup>ら</sup>せ<sup>中</sup>う<sup>ら</sup>し<sup>白</sup>く<sup>干</sup>















後子と耐ぐさおい庭の生虫ととうきりうきりぬ  
 生虫の毒氣にあたりて生虫かごとくさうかた  
 ○又百折の午の所を考つてむとわらうとぬあ  
 まるるゝ所はとうきりうきり先まの株とけり  
 地の所始とぬとわらうとさうかたり ○又  
 五月中 玉の天動始て思ふとされどもは動はけり  
 ごとくい時も又去らるものなり又夜玉の後九  
 折ひと一折も又去らるものなり ○又夜玉の  
 と折せば一折なりてみなうとあるものなり  
 を名付く膏澤と云くたはらふいわく時なり  
 皆これ折してすぐもそりさうなり ○又去ら  
 しん凍のすこきけりる中まはれ湯のぬせざるよ必  
 折すうとさうきりぬの動とわらひぬのまわ  
 とけりぬも自らさう折すべし ○又去ら  
 きとまはれ株のりるるるまわと折すべし  
 ばあの大い地とさうきりぬとまわと折すべし  
 又折すべしぬのは又折すべしかきさか  
 やうにとさうきりぬを折すべしと強さ  
 るにけりるるると云なり ○又かきさか  
 花を折す花を折す又折すまわと折す

農業卷一

〇



ともよま生しぬうかひの時又かきあへぬよ  
 長うるまひなるくふ牛さるとく耕すべし。さふらぬ  
 よへまともけつうくけるおなり。○あつらひの  
 乃ちとぬがごとくうかひもちるたよあつく耕す  
 地ふげごとくまも腐つて候ますしとくうく地  
 とあよとつて完うりせしむかく中うちまらるるを  
 けりかう。糞のさうす地やせくあるくもれなり。  
 土わ乃ちぬへと暖くけるふるかひをゆくと耕し  
 ちまらなくまて又耕し。地がもるくさかしくる地  
 へかゆきとらるかひくまよとたれつあましく瘠地を

田とけるもれなり。○又盛冬乃ちまき時耕すは  
 陰動もれぬくたの動ゆるものあり。是甚きくま  
 とあり。○へ一脱ふ後さちま去乃ちまきと正月よ  
 うまよく耕すべしと云なり。○又正月凍とけく  
 うるやひとらんく義田と又河よとそい水と先耕し。  
 二月春乃ち花のさうりに白沙れ地がらさちた乃ちと耕  
 べし。そら又一河れさひなり。○又泥田れ表は耕す  
 けりかう。されどとあくと落し。干田うへけるさ  
 瘠るる地はもととんくをまふと落し。干田と  
 一。耕てそまうかじ。そを地とさうすしてとさか



















枝葉さへ入るると輝く。穀くまうくまうくは  
 穀田とすなは実つと甚多し。糞と多く入るは  
 勝まるとす。○又白晩橋乃経の云と約く新す。七  
 を編ぶくさうすし。かたさなを中くさうのとき  
 云新せん牛はらうと入しと輝やと。○又曰云  
 乃新の物也。宜し。夏ハ秋とつぬぐ。秋ハ白うと新  
 す。○又曰輝新との若れ才一の任立くを  
 能乃討め。皆新し。は乃るるをねばき新し。んと自也。  
 言回ハ深く新し。産のたまてよくわらき熟す。下。産  
 2 陽也。書更わき。産の地ハ利從多き。の穀のま  
 およまるとどく。そは根のり。多く田島と産るるを  
 食るハげて。若れ人の病もく。うねりくす。こハ  
 ひとあやまるし。の芥。田島知よ。ぬれ。能令新産比  
 ばさうくまうくも。人カうと。そは法よく。びる。ひの  
 新し。産る。ゆも。必何よと。これ。地と皆。比乃カと。あ  
 して。わさ。さる。此。なり。新産。分。量。より。内。づ。う。ん。深。く。新  
 し。あ。く。あ。り。厚。く。培。少。し。利。從。多。し。と。輝。す。○又  
 曰。小。れ。若。令。今。こ。は。根。よ。明。ひ。それ。く。は。使。と。立。新。産。し。  
 く。は。さ。ら。ぬ。ね。ば。な。の。づ。う。さ。ん。の。り。ぐ。こ。も。な。く。し。て。そ。よ。は。し  
 ころす。こ。い。ひ。ま。ま。さ。の。り。な。れ。ど。或。は。あ。う。う。ん。て。又。是。枝。葉

枝葉さへ入るると輝く。穀くまうくまうくは  
 穀田とすなは実つと甚多し。糞と多く入るは  
 勝まるとす。○又白晩橋乃経の云と約く新す。七  
 を編ぶくさうすし。かたさなを中くさうのとき  
 云新せん牛はらうと入しと輝やと。○又曰云  
 乃新の物也。宜し。夏ハ秋とつぬぐ。秋ハ白うと新  
 す。○又曰輝新との若れ才一の任立くを  
 能乃討め。皆新し。は乃るるをねばき新し。んと自也。  
 言回ハ深く新し。産のたまてよくわらき熟す。下。産  
 2 陽也。書更わき。産の地ハ利從多き。の穀のま  
 およまるとどく。そは根のり。多く田島と産るるを  
 食るハげて。若れ人の病もく。うねりくす。こハ  
 ひとあやまるし。の芥。田島知よ。ぬれ。能令新産比  
 ばさうくまうくも。人カうと。そは法よく。びる。ひの  
 新し。産る。ゆも。必何よと。これ。地と皆。比乃カと。あ  
 して。わさ。さる。此。なり。新産。分。量。より。内。づ。う。ん。深。く。新  
 し。あ。く。あ。り。厚。く。培。少。し。利。從。多。し。と。輝。す。○又  
 曰。小。れ。若。令。今。こ。は。根。よ。明。ひ。それ。く。は。使。と。立。新。産。し。  
 く。は。さ。ら。ぬ。ね。ば。な。の。づ。う。さ。ん。の。り。ぐ。こ。も。な。く。し。て。そ。よ。は。し  
 ころす。こ。い。ひ。ま。ま。さ。の。り。な。れ。ど。或。は。あ。う。う。ん。て。又。是。枝。葉



























ともいふまゝに。その利はと考へ。積もるより。お後の世に傳  
 らざれば。あつは人の力と。あしと。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 先田。あつは。と。考へて。と。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 早に。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 糞。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 十。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 きて。牛。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 他。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 く。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 馬。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。

ともいふまゝに。その利はと考へ。積もるより。お後の世に傳  
 らざれば。あつは人の力と。あしと。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 先田。あつは。と。考へて。と。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 早に。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 糞。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 十。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 きて。牛。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 他。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 く。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 馬。と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。  
 と。考へても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。おぼへても。

○浮泉の輪一宮

○其



土を海まで打合しう堀あはせけううきう流へしを  
 おろしうたふしとまじひしあり ○土壌はま  
 に宜しとく敷の地はまじひのよき地とぬじ  
 ぬりり赤土にまじりて宜しとく土乃敷は赤土とぬじ  
 ちるぐ一草木赤土黄土と肥に宜しとく赤土  
 ても宜しとく地はまじりて宜しとく赤土  
 とく宜しとく地はまじりて宜しとく赤土  
 ちるぐ一草木赤土黄土と肥に宜しとく赤土  
 ても宜しとく地はまじりて宜しとく赤土  
 とく宜しとく地はまじりて宜しとく赤土  
 ちるぐ一草木赤土黄土と肥に宜しとく赤土  
 ても宜しとく地はまじりて宜しとく赤土  
 とく宜しとく地はまじりて宜しとく赤土

用はきりし土はまじりて宜しとく赤土  
 強き土はまじりて宜しとく赤土  
 弱き土はまじりて宜しとく赤土  
 肥しとく宜しとく地はまじりて宜しとく赤土  
 ○又草樹乃敷は赤土と肥に宜しとく赤土  
 ちるぐ一草木赤土黄土と肥に宜しとく赤土  
 ても宜しとく地はまじりて宜しとく赤土  
 とく宜しとく地はまじりて宜しとく赤土  
 ちるぐ一草木赤土黄土と肥に宜しとく赤土  
 ても宜しとく地はまじりて宜しとく赤土  
 とく宜しとく地はまじりて宜しとく赤土

田舎無事



を少くするが、その記しがたり ○又同上

ととりとよめた人けらうなるおの也と その云と その云と

とよし物その その中下の云よ その云よ その云よ その云よ

弱と その云よ その云よ その云よ その云よ

を少くするが、その云よ その云よ その云よ その云よ

とよし物その その中下の云よ その云よ その云よ その云よ

弱と その云よ その云よ その云よ その云よ

を少くするが、その云よ その云よ その云よ その云よ

とよし物その その中下の云よ その云よ その云よ その云よ

弱と その云よ その云よ その云よ その云よ

を少くするが、その云よ その云よ その云よ その云よ

とよし物その その中下の云よ その云よ その云よ その云よ

弱と その云よ その云よ その云よ その云よ

を少くするが、その云よ その云よ その云よ その云よ

とよし物その その中下の云よ その云よ その云よ その云よ

弱と その云よ その云よ その云よ その云よ

を少くするが、その云よ その云よ その云よ その云よ

とよし物その その中下の云よ その云よ その云よ その云よ

弱と その云よ その云よ その云よ その云よ

を少くするが、その云よ その云よ その云よ その云よ

とよし物その その中下の云よ その云よ その云よ その云よ

弱と その云よ その云よ その云よ その云よ











ゆびくくろくろく。他ははらうくた。此處のらん合を又  
ゆあ也。○又老人つらひは磨きつく。土用八巻のてお  
飛たつらりと考へ凡由おれ者あへんて。城はよかへ。必  
死のかりり。は。城をたてんる中。は。つら。おさね。おが。つら。め。れ  
ふ。よ。く。つら。りと。國。乃。中。ま。く。う。く。お。ん。づ。ら。り。彼。そ。ら。つ。ら。り。の  
め。ら。ひ。の。づ。ら。く。を。原。直。く。す。へ。○。柵。事。と。お。ら。い。定。る  
工。更。ハ。老。人。の。よ。は。泥。ね。ども。老人。の。お。ん。を。勇。め。り。  
ま。を。れ。考。へ。と。誅。に。ね。ね。だ。一。時。の。恨。め。は。ら。り。教。育。者  
若。と。如。く。を。く。さ。る。こと。お。ま。り。う。あ。く。と。ゆ。め。す。る  
ら。と。お。と。を。は。湯。た。る。後。後。の。老。業。と。軍。る。は。ら。る

し。れ。す。ま。ま。は。バ。後。利。が。る。一。日。月。乃。天。よ。あ。ら。う。こと  
瞬。と。ら。る。一。律。た。ゆ。を。行。き。な。ら。う。と。同。高。と。し。て。了。ん  
ま。ら。う。と。す。持。し。新。他。行。道。乃。の。立。に。矢。乃。れ。袖。と。ち  
い。の。の。の。な。れ。は。急。激。し。て。船。と。日。に。と。く。は。く。起。大。切。な。物  
か。る。老。業。と。し。て。ま。ま。と。ま。ま。と。日。の。日。は。又。か。き。な。ら。う。と。づ。ら  
と。す。は。く。備。に。急。り。づ。ら。に。お。し。る。者。も。あ。ら。う。と。く。老。業。と  
い。ふ。か。り。は。し。ん。遠。つ。る。と。み。く。た。た。は。り。ぐ。と。な。れ。い。ら。う  
く。田。島。と。病。わ。れ。年。と。月。と。う。さ。ね。笑。い。や。ま。う。凱。進  
乃。う。ま。い。よ。せ。ま。ら。う。ほ。く。ハ。父。子。更。ぬ。も。と。ま。れ。ぐ。い。は。ら。り。  
清。く。人。づ。ら。い。れ。の。身。と。お。ら。れ。た。貧。苦。の。め。や。む。け。ま。し。







畠あふむ。畦のうらふもふよ。掘げとせ。うらわくばう。あむ。根の  
 きんじをせ。むくま。とせ。かひ。又。とせ。うら。と。糞。と。う。く。ね。だ。  
 掘。う。も。腐。り。つ。び。わ。く。だ。う。く。掘。も。た。け。り。そ。と。好。と。云。  
 けり。た。う。り。転。ね。く。ま。ぎ。る。ま。あ。や。て。苗。の。根。は。掘。る。  
 ち。よ。う。や。ど。か。が。ひ。き。く。も。や。り。○。又。穀。と。か。は。中。う。ら。を。  
 ろ。し。小。掘。と。う。と。す。る。と。く。根。は。よ。れ。ぬ。く。ゆ。い。う。ら。  
 つ。と。根。は。う。ら。し。ま。り。大。掘。は。直。て。く。ず。む。お。よ。う。り。時。  
 よ。は。う。ら。の。う。か。ね。も。強。く。あ。う。く。中。う。ら。を。さ。る。の。う。ら。ぬ。  
 む。け。り。の。う。ら。も。う。根。と。根。は。う。ら。う。ら。う。く。苗。の。根。は。あ。く。  
 あ。う。ら。う。く。と。小。掘。は。も。と。さ。る。の。こ。も。さ。る。と。地。熱。し。て。穀。

多く。糖。う。と。く。米。欠。の。ま。し。あ。く。中。う。ら。う。ら。千。の。こ。  
 と。十。五。ヶ。り。わ。だ。八。米。と。め。る。と。く。根。を。く。又。ま。ま。き。の。を。  
 ○。又。田。ま。は。中。う。ら。の。地。と。起。し。な。か。ま。と。削。穀。し。か。り。  
 と。と。ら。ひ。し。一。毛。一。毛。乃。け。し。ひ。ま。り。○。又。ま。か。は。か。ほ。  
 ち。れ。あ。る。時。中。う。ら。う。ら。す。う。す。な。ま。い。ど。も。六。月。は。七。月。  
 は。温。し。ぬ。ら。も。く。う。し。く。づ。ま。ま。ら。り。う。ら。に。中。う。ら。し。す。  
 わ。だ。地。を。ま。り。つ。く。苗。痛。じ。も。り。な。り。な。ら。る。な。ら。う。て。  
 日。と。か。ん。の。と。れ。し。と。地。に。ま。り。と。う。ら。の。こ。も。さ。る。の。う。ら。ぬ。  
 さ。う。の。物。と。あ。り。と。○。又。及。八。穀。も。け。し。く。し。て。な。ま。  
 ぐ。う。ら。う。ら。に。中。う。ら。う。ら。涼。く。と。ん。た。苗。痛。じ。も。あ。り。○。又。











































けらるに於て又きりかへしとらん。○又田畠  
 糞とくろむ。糞に和とあゆらるとも。まわりのあ  
 したをくくさひあざれば味ひ稠いものなり。あ  
 じくくどく。だと糞をくくまうし。じくくあひ合  
 ざればまわく。或はまわるとは病とせむ。くくもて  
 やれん。あしじくまうし。又地らし。のあま  
 くらくあうこと多く。地らし。土地に深き根が利  
 けい。まわりの糞れあま。あま。く。たれ。く。と。深  
 く。起し。物と。り。和。わ。の。も。あ。ま。く。と。あ。一。あ。  
 あり。と。同。く。なら。し。あ。れ。た。う。と。く。と。た。ま。る。糞。は。さ

しひ。こ。彼。ら。送。乃。葉。と。用。り。核。物。と。く。合。兵。して。  
 若葉とほとつた。ん。目。あ。に。利。は。と。た。ん。の。取。ひ。を  
 う。く。あ。一。と。く。整。る。を。此。葉。後。と。味。一。大。功。は  
 て。あ。ま。と。さ。と。れ。く。の。用。と。持。く。つ。ま。く。若。氏。は  
 魚。一。ん。を。用。ひ。く。糞。一。は。ま。く。あ。り。の。重。後。あ。ま  
 子。去。地。一。う。り。向。か。と。考。へ。宜。ま。に。ほ。く。用。ひ。を。他。の  
 物の。た。ま。よ。あ。ま。く。一。備。一。我。倉。乃。内。の。お。と。あ。が。て。く  
 に。お。と。う。く。あ。ま。く。す。是。滋。一。去。氏。部。核。乃。く。ま。こ  
 此。中。に。も。あ。ま。く。や。一。さ。い。あ。ま。れ。は。は。た。の。と。あ。く。さ。う  
 ぬ。あ。ら。ん。と。く。核。め。く。や。あ。ら。う。く。む。げ。れ。と。あ。較























かねどもきびいぶくるるべしとそを免れに実あるゆあり。  
 粟米をそく刈べしはやえれた批多し。○又刈ほるふ。  
 夫の種あとうく考らるるべし。刈とさくくあるあは損  
 とくふるゆかか。○又刈地はぬ分強乃うすく。うく  
 きんこともあつび用い。此さうまうくうれば穀もか  
 ちやすくむもあも若身してさうゆらざる地なり。お  
 の造作といらどよくさるるを刈い。○又菘漢  
 書に記しける穀と種るし。一冬と多くハ作らづ  
 らどと。うんとあれども穀と始りうそ。種穀種あ  
 作らど。いひら。いも。も。本に必利とゆおもある。

まれども皆損むるまで乃熱はなし。あ一程と多く  
 作らく。おあする年。大村とゆらゆとあれど。うねハ  
 稀うそ。実家にあつる。多し。唐人必多くと作ら  
 一と。ん。こ。り。地に土地のおあ。不。お。あ。し。り。り。ふ。え  
 と。ゆ。と。お。め。作。ら。ぶ。

蓄積 併儉物 才九

又サ農家よ。お。ざ。り。う。く。あ。ら。ま。ま。れ。う。ん。実。し。も  
 の。お。ね。し。こ。て。よ。り。材。穀。と。蓄。つ。ざ。ん。は。あ。い。あ  
 ひく。飢。と。ま。め。れ。難。し。は。ね。し。身。持。を。送。り。儉。物。と  
 ちり。く。け。射。と。ち。と。う。ず。べ。し。唐。れ。葉。馬。の。代。は。九。年



乃流あり湯ま七の早よあひぬくぐも氏よ  
 儀死よりとらるる一帯に蓄積のそりてつりて  
 こひてれ用とよけれがかりぬえいみ教とた何とて  
 金玉といやじとくみ教はまうる突いなりとせり  
 いんおれ金銀珠玉飢く食すべしすそと  
 てせとらるべしとひゆいみ教と蓄積計とつじ  
 も一け射かりせりなれどあまぬおるそこの災計よ  
 あつた飢えこれ若しとあれごと一古三の新しく  
 ろくす一もの食と儲せらぬはありまこと候もた  
 小と下うれく意どくに皆い法とちりく蓄とほ

けつゆへ早流あ虫風らどのづひ乃とる人となり又  
 疫病火災自かれわざひありといへも蓄と積  
 らゆ困窮にせりるせのいりりしとらるも別をの  
 どのも分派とあら帯に横約とるして入とらりて  
 せりもとる一候もあをこれ災と候も蓄と積す  
 けりりされが主智乃多獣も若ほれ罪ととるあ  
 りみすのあまぐき松のうらまも蓄と積す  
 みにあすの積り色皆冬の風を蓄と積す  
 に夏秋より倉地居下のそ候とらるすけるふ  
 乃蓄とらる人とせたりさいや一と若も分派とけり  
 づりゆのあひぬのうらる人けりて外方づいむとる

農書卷

五







と建策教とたく入と。夫火又渡嶽おれんやう物  
 け外政く氏乃災と報とをうんとかりし。その時  
 物いよのぬすもくもくあしくたさ久えん  
 つままたらの悉くして夫と代とく方氏とあて  
 の子母の職分と若野の賢者に寄りてくせのる  
 思がくはとくかりん。然るに夫の代はあつてはやま  
 唐人のむらまきと身おけひ甚古は風俗よりり  
 て華女と好とをとまうす。その時を乃るうりゆ  
 うひよりあまとおれお魚の妻とさるふつとを  
 こかおんむらりにあもるく。あ一年もあひるん

ん依しゆはしてほ乃難候ととれ夫りは傍とさ  
 米穀と費しゆりて紙の候ととく流しゆ  
 おせる所の地とされうと沙のてくけうひ推測ら  
 くり果とくさそあひのあひぬれ家材と考し  
 田畠と使地に入通商のてあは多くは利息と加へ  
 て合せとれ然し貧窮れ民となり。その時若と米と  
 土地とのかせとく。うれへと懐くのとかり。是後  
 歳乃答よあつた。たふ三年の内一年は若と  
 一と一年は若とあつた。然れども若年の  
 計と若と。あひれうと若とあつた。若と甚



こと不足りしりべし。さねに富み緇の二川なり。  
 又書乃洪範に八政の一日食。二曰貨と見せしむ。  
 夫も僕約とちり。財を費とよとをたつひの用ひる。  
 上と下と信むと人君のをよとく。第一の勤りしとよ。  
 まゆあれはなり。をと財用と昔にすよ。を財用と。  
 天下國家と治め。万民と極やんと。一世まて安んず。  
 ろし。しる根源ふよ。又家く人。貧弱のくるしと。  
 のれん皆に念とら。家君と安く。一史一冊の貧。  
 財を。まよものよ。もろまてく。たて。知達れらる。  
 くと。孝才忠信も。もろら。ゆるる。と。りく。た。た。

かねば。人。信。て。り。く。僕。約。と。ち。り。く。と。益。の。な。り。  
 費と禁と。と。ち。ね。と。た。く。す。を。う。く。さ。ら。る。組。の。  
 こと。困窮。難。儀。も。な。く。と。く。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
 こと。と。治。す。と。も。則。私。權。の。重。王。の。名。を。治。  
 け。氏。と。り。く。と。治。は。なり。○又。さ。に。一。行。の。人。も。  
 各。盡。の。ん。と。痛。疾。と。る。と。能。合。衆。善。法。と。あり。と。  
 貧。り。納。り。し。を。の。と。ぬ。え。と。極。好。へ。く。又。一。月。り。する。  
 く。夫。規。の。難。儀。と。い。ふ。も。ん。つ。と。助。り。し。も。形。ま。の。ま。く。  
 規。新。明。な。れ。國。務。と。芳。し。り。ぐ。ひ。ん。と。る。く。仁。を。こ。こ。し。  
 乃。ん。法。く。と。一。向。懸。心。り。く。と。義。は。入。る。こ。こ。し。







く者。この本の条下に記す。○又田家或田畠に  
 一本と云く。常しを。一と云く。いづゆり。も。あふ。乃。風  
 定と。何と。東南の。暖。けり。和。氣。を。蓄。入。湯。氣。の。内。  
 満。ら。ん。切。し。て。載。ぬ。れ。ど。こ。内。に。化。れ。地。の。盛。長。も。早。く。よ  
 く。さ。う。と。地。の。漸。乾。く。礎。土。の。養。し。は。良。田。と。か  
 る。べし。假。令。肥。良。の。土。地。と。も。あ。ふ。れ。風。害。つ。ら。け。れ。ど。  
 和。れ。と。吹。さ。り。一。と。田。畠。に。糞。一。ま。い。を。用。て。し。その  
 氣。を。吹。ち。し。す。ゆ。地。り。地。り。ま。き。く。こ。と。す。れ。一。病。は。新。  
 腦。腐。も。ろ。ふ。の。ま。か。ひ。あ。る。葉。と。風。を。ま。た。を。く。何。い。ま。ふ  
 か。ひ。た。め。け。く。は。は。く。ら。ら。と。同。じ。や。り。也。也。一。と。田。家

を。一。と。乃。口。乃。は。本。と。う。ゆ。ら。ん。葉。く。れ。泣。あり。凡。定  
 と。う。せ。ぐ。の。こ。ま。あ。く。と。盜。賊。の。防。ま。し。と。なり。或。部。あ。の  
 大。葉。の。幅。も。け。り。枝。葉。に。折。れ。池。岸。と。物。け。ま。し。本  
 は。石。と。め。と。伐。て。材。木。と。し。落。葉。に。付。し。田。畠。の。糞。一  
 よ。と。地。け。り。葉。樹。と。あ。ふ。の。方。に。植。竹。と。東。山。乃。隅。一  
 う。と。松。と。あ。ふ。れ。あ。い。ら。す。ら。ば。ね。の。ゆ。也。○又。家  
 書。と。吹。く。ま。ろ。ま。む。何。し。杉。栲。ろ。の。葉。木。と。う。と。ま  
 て。ほ。の。破。換。乃。と。め。い。ら。る。と。く。一。と。ま。の。ま。け。し。は。ま  
 一。良。材。四。本。あ。れ。材。と。なる。地。方。を。れ。せ。れ。く。れ。工。人  
 個人。集。つ。ま。く。久。く。乃。葉。地。と。地。り。び。し。亦。い。高。人。を















と所より。おこり。ちよふに多きうりまら。必あり  
 本をぬげんばそれとねら。お後まてく。池のりちく。多  
 う。う。う。う。う。の下より。別用。に立。り。なり。○ふ  
 中。の。敷。地。と。作。れ。ば。麻。も。ち。ち。ふ。そ。と。ま。れ。り。と。し  
 ち。う。め。が。か。し。老。人。を。ふ。れ。あ。ま。な。う。う。に。志。さ。う  
 の。く。り。は。さ。く。地。よ。あ。い。ぬ。敷。地。と。ま。つ。く。作。り。も。  
 ち。あ。ら。う。み。さ。う。う。あ。い。ち。地。の。定。ま。り。法。を。う。り。く。  
 四。本。お。と。地。と。ふ。と。ま。あ。く。あ。つ。く。村。の。多。き。ま  
 本。と。栽。し。地。の。む。れ。り。と。ま。あ。く。あ。つ。く。村。の。多。き。ま  
 本。と。栽。し。地。の。む。れ。り。と。ま。あ。く。あ。つ。く。村。の。多。き。ま  
 本。と。栽。し。地。の。む。れ。り。と。ま。あ。く。あ。つ。く。村。の。多。き。ま

代。こ。の。定。め。は。と。記。し。と。け。り  
 四。本。の。葉。漆。葉。核。三。草。の。麻。藍。紅。花。を。なり







卷一  
目錄

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、  
二十一、  
二十二、  
二十三、  
二十四、  
二十五、  
二十六、  
二十七、  
二十八、  
二十九、  
三十、  
三十一、  
三十二、  
三十三、  
三十四、  
三十五、  
三十六、  
三十七、  
三十八、  
三十九、  
四十、  
四十一、  
四十二、  
四十三、  
四十四、  
四十五、  
四十六、  
四十七、  
四十八、  
四十九、  
五十、  
五十一、  
五十二、  
五十三、  
五十四、  
五十五、  
五十六、  
五十七、  
五十八、  
五十九、  
六十、  
六十一、  
六十二、  
六十三、  
六十四、  
六十五、  
六十六、  
六十七、  
六十八、  
六十九、  
七十、  
七十一、  
七十二、  
七十三、  
七十四、  
七十五、  
七十六、  
七十七、  
七十八、  
七十九、  
八十、  
八十一、  
八十二、  
八十三、  
八十四、  
八十五、  
八十六、  
八十七、  
八十八、  
八十九、  
九十、  
九十一、  
九十二、  
九十三、  
九十四、  
九十五、  
九十六、  
九十七、  
九十八、  
九十九、  
一百



